

は逆で、グリム決定版と同じ設定である。こうなると、「山形民話」の設定も、もはや、疑問ではなくなる。「山形民話」は、落語の逆転ヴァージョンが民話化したものかもしれないし、また、このようにころころ逆転するものなら、民話化する際に再逆転したとしても、特異な現象とは言えなくなる。

いずれにしても、グリムから落語を経て「山形民話」となった死神メルヘンが、日本のメルヘンとしてテレビアニメにもなっていたわけである。「山形民話」が落語から作られたと考えられるという指摘は、すでに(石井)にあり、同書では、落語「死神」が民話化したとみられる事例は、他の土地でもあるとして実例もあげている。ただし、それらの「実例」のうち、筆者の考えでは、落語から作られたと断言できるのは、「山形民話」だけである。

なお、(関)には、「死神」に関して、「トルコ、インドなどでも記録されている。グリムの『名付親の死神』(四四)などがこの形式で、わが国では、落語『死神』として知られている。これらの伝承も落語に近い。この落語は明治中期、イタリアのオペラ『靴直しのリスピー』に基づいて円朝が創作したともいわれている」とあり、ついに、「リスピー」という誤記まで登場してしまったが、トルコ、インドにも類似

の話があるということになると、死神メルヘン発祥の地の特定は、ますます、一筋縄ではいかなくなる。そもそも、原初的な形であれば、複数の発生源がある可能性だってある。

(トム)によると、「死神の名付け親」の伝承は、「ヨーロッパからパレスチナまで広く知られている。やはりもつとも盛んに語られているのはバルチック、スカンジナビア、ドイツ地方である」との事であり、(弘文)の「死神の名付け親」の項の解説を見ると、世界には、「五六〇話以上の類話が記録されている」とのことだから、それらの分析は、とても、今、筆者の手におえるものではない。(トム)には、この方面の参考文献も記されているので、興味をお持ちの方は参照されるとよいだろう。今回、本稿では、これ以上、この問題には深入りしない事にする。なお、(金成)によると、グリム兄弟が、「死神の名付け親」の物語を誰から聞き取ったのかについても、諸説があるようであり、例えば、(吉原)と(鈴木)とでは、互いに異なる説が採用されている。

### グリムの「死神」の日本への流入経路

さて、落語「死神」がグリムの「死神」から作られたとす